



【計画の背景】

石垣港は、沖縄本島から南西約四〇〇kmの海上にある八重山諸島の中心である石垣島に位置する日本最南端の重要港湾で、日本本土、沖縄本島、台湾等東南アジアと八重山圏を結ぶとともに、八重山諸島の各離島への連絡基地として、また八重山観光の拠点として重要な役割を果たしています。

平成七年一月に発生した阪神・淡路大震災では、多くの港湾施設が地震により甚大な損害を受け、港湾機能がマヒする事態となりましたが、その中で耐震強化構造として造られた岸壁は被害も比較的少

その5
開発建設部



石垣港フェリーふ頭 -9m耐震強化岸壁 ~起工式~



ケーソン据付工事

本施設は、大規模地震が発生した際の緊急物資および避難者の海上輸送を円滑に行うための中核施設として石垣市防災計画に位置づけられており、災害時には、海上からの緊急物資を扱う防災拠点として、また、港湾施設が復旧に至るまで、八重山地域の物資輸送の大半を担う施設として早期の完成が望まれています。

なく、被災地への緊急物資の海上輸送等では重要な役目を果たしました。平成八年十一月に改訂された港湾計画では、貨物量の増大、船舶の大型化および外航クルーズ船の寄港等新たな要請に対応するとともに、本港地区のフェリー、雑貨・バラ貨物等の混在かつ過密利用の解消を図るため、水深9.0mのフェリーふ頭が計画され、大規模地震対策の観点から本施設を耐震強化岸壁として整備することになりました。

【石垣港フェリーふ頭 - 9 0m耐震強化岸壁施設概要】

施設延長 / 岸壁部	280m
	(取付部含む)	
港湾施設用地(護岸)	80m
水 深 /	9 0m
エプロン幅 /	50m
対象船舶 /	15 000G/T級

天端高 / 岸壁部(取付部含む) 港湾施設用地 + 3 4m
構造形式 / 岸壁部 ケーソン式
港湾施設用地(護岸) ケーソン式
設計震度 / Kh = 0.23, Kv = 0.0
基盤の最大加速度 / 260Gal

【整備スケジュー】

平成十年度より耐震岸壁の本体となるケーソン製作工事を実施し、今年度からは現地工事に着手して、基礎工、本体工、裏込工、上部工、埋立工、舗装工、付帯工の整備を進めて平成十四年度早々の供用開始を目指しています。

【起工式】

沖縄総合事務局および石垣市の共催により本施設の起工式が九月十三日に下地幹郎沖縄開発庁政務次官、白保台衆議院議員ら多数の来賓の方々の出席を頂き、主催者である小山沖縄総合事務局長および大浜石垣市長の挨拶により起工式が始まり、大城石垣港湾工事事務所長による事業概要説明に続き、沖縄開発庁長官代理の下地沖縄開発庁政務次官、運輸省港湾局長代理の佐藤運輸省港湾局技術指導官、さらに沖縄県知事代理の安川沖縄県技監の方々からの祝辞の後、岸壁の本体である第1函目のケーソンペースト=10.0m、B=13.0m、H=11.0m、重量=1,480tの据付を行うための注水ポンプの始動スイッチが関係者により押され、ケーソン据付が開始され無事9.0m耐震強化岸壁の起工式を終えることになりました。

【終わり】

石垣港湾工事事務所は、この起工式を契機に石垣港が益々発展していくよう港湾管理者である石垣市とさらに連携し、港湾施設整備を推進します。

また、本整備にあたっては、現場における安全管理・施工監督体制に十分配慮し、迅速・安全・確実を第1に全力を傾注していくこととしておりますので、関係各位のなお一層の支援と協力を賜りますようお願い申上げます。



起工式



ケーソン据付状況

